

学習指導要領	都立篠崎高校 学カスタンダード
(1) 世界史への扉 自然環境と人類のかかわり、日本の歴史と世界の歴史のつながり、日常生活にみる世界の歴史にかかわる適切な主題を設定し考察する活動を通して、地理と歴史への関心を高め、世界史学習の意義に気付かせる。 ア 自然環境と人類のかかわり 自然環境と人類のかかわりについて、生業や暮らし、交通手段、資源、災害などから適切な歴史的事例を取り上げて考察させ、世界史学習における地理的視点の重要性に気付かせる。 イ 日本の歴史と世界の歴史のつながり 日本と世界の諸地域の接触・交流について、人、もの、技術、文化、宗教、生活などから適切な歴史的事例を取り上げて考察させ、日本の歴史と世界の歴史のつながりに気付かせる。 ウ 日常生活にみる世界の歴史 日常生活にみる世界の歴史について、衣食住、家族、余暇、スポーツなどから適切な事例を取り上げて、その変遷を考察させ、日常生活からも世界の歴史がとらえられることに気付かせる。 (2) 諸地域世界の形成 人類は各地の自然環境に適応しながら農耕や牧畜を基礎とする諸文明を築き上げ、やがてそれらを基により大きな地域世界を形成したことを把握させる。 ア 西アジア世界・地中海世界 西アジアと地中海一帯の地理的特質、オリエント文明、イラン人の活動、ギリシア・ローマ文明に触れ、西アジア世界と地中海世界の形成過程を把握させる。	・人間の活動の繰り返しである歴史がいかに自然環境と密接にかかわり合っているかを理解し、世界史学習における地理的視点の重要性に気付く。 ・文化を中心に、日本とアジア、日本とヨーロッパそして日本とアメリカの関係性に気付く。 ・身の回りの出来事や現象について、その起源や変遷などを理解し、日常生活から世界の歴史がとらえられることに気付く。 【オリエント世界の成立】 ・西アジアの大半が乾燥地帯であり、大河流域のメソポタミアとエジプトで農耕・牧畜がはじまり、文明が誕生したことを理解する。 ・文字や暦など、現在も使用されているものがオリエント文明で作られたことを理解する。

学習指導要領	都立篠崎高校 学カスタンダード
イ 南アジア世界・東南アジア世界 南アジアと東南アジアの地理的特質、インダス文明、アーリア人の進入以後の南アジアの文化、社会、国家の発展、東南アジアの国家形成に触れ、南アジア世界と東南アジア世界の形成過程を把握させる。	【イラン】 ・アケメネス朝ペルシャがオリエント世界を統一し、諸民族の交流を急速に促したことを理解する。 ・ササン朝がイラン文明を東西に広めたことを理解する。 ・ゾロアスター教から、宗教について考える。 【ギリシア・ローマ】 ・地中海性気候の特徴を理解し、ギリシアの植民活動とその影響を考える。 ・エーゲ文明と四大文明を比較し、相違点を考える ・ペルシャ戦争を軸に、アテネの民主化から民主制について理解する。 ・マケドニアの遠征から地中海世界と東の交流を理解する。 ・キリスト教の成立を知る。 【インダス文明】 ・遺された遺跡(モヘンジョ=ダロ、ハラッパ)から、インダス文明が都市文明であったことを理解し、そこから都市とは何かを考える。 ・アーリア人が侵入し、やがてマウリア朝やグプタ朝などの帝国が成立したことを理解する。 ・インド=ヨーロッパ系語族から、インドとヨーロッパの関係を理解する。 ・バラモン教がヴァルナ制度と結びつき、カースト制とへとつながることを理解し、ヒンドゥー教とカースト制度の関係性を考える。 ・仏教の成立を理解し、他の宗教とのかかわりを考える。 【東南アジア国家成立】 ・東南アジアは半島部と島嶼部からなり、それぞれ展開し国家を形成していったことを理解する。 ・東南アジアの地理を理解し、国家成立の過程を理解する。 ・ボロブドゥールなどの寺院から、仏教の広まりと関係を理解する。

学習指導要領	都立篠崎高校 学カスタンダード
ウ 東アジア世界・内陸アジア世界 東アジアと内陸アジアの地理的特質、中華文明の起源と秦・漢帝国、遊牧国家の動向、唐帝国と東アジア諸民族の活動に触れ、日本を含む東アジア世界と内陸アジア世界の形成過程を把握させる。	【東アジアの自然環境と人々】 ・東アジアの気候を理解し、農耕の成立の過程を理解する。 【黄河文明と長江文明】 ・彩文土器を特色とする仰韶文化と黒色土器を特色とする竜山文化の違い、成立過程を理解する。また、河姆渡遺跡から視覚的に農耕文明について理解する。 【中国文明の形成】 ・黄河・長江での殷・周の成立、文字の誕生、封建制度の仕組みを知る。 ・春秋戦国時代にさまざまな思想が生まれ現在にも受け継がれていることを理解する。 ・秦の中国統一から滅亡までの流れの中で築き上げられた文化を理解する。 ・漢の成立について、漢文に触れながら理解する。 ・中国の文化を正しく理解する。 【中央ユーラシア世界の国家形成】 ・シルクロードから東西のつながりを考える。 ・遊牧民の華北進出と華北住民の江南への移住を知り遊牧民の定住化や均田制などの傾向を考える。 【唐】 ・唐が支配体制を整え、周辺諸国との間に安定した関係を結び、東アジア世界と内陸アジア世界を含む政治秩序を形成したことを知り、日本と中国の関係を考える。
エ 時間軸からみる諸地域世界 主題を設定し、それに関連する事項を年代順に並べたり、因果関係で結び付けたり、地域世界ごとに比較したりするなどの活動を通して、世界史を時間的なつながりに着目して整理し、表現する技能を習得させる。 ユーラシアの海域及び内陸のネットワークを背景に、諸地域世界の交流が一段と活発化し、新たな地域世界の形成や再編を促したことを把握させる。	・これまで学習した地域の歴史の、横のつながりを視覚的に理解し、自分の頭で整理し、表現することができる。

	学習指導要領	都立篠崎高校 学カスタンダード
(3) 諸 地 域 世 界 の 交 流 と 再 編	ア イスラーム世界の形成と拡大 アラブ人とイスラーム帝国の発展、トルコ系民族の活動、アフリカ・南アジアのイスラーム化に触れ、イスラーム世界の形成と拡大の過程を把握させる。	【イスラーム帝国の成立】 ・7世紀の西アジアの情勢とムハンマドの活動から、イスラーム成立の背景と特質を知る。 ・カリフの指導の下におけるウマイヤ朝、アッバース朝それぞれの支配地域を確認し、アッバース朝でイスラーム法に基づく国家体制が確立し、ムスリム商人を中心とした交易活動が活発化したことを理解する。 ・9世紀以降、アッバース朝の政治的衰退に伴ってイスラーム帝国の統一性が失われる中、アラビア語によるコーランの読誦と、経済・文化による交流がムスリムの連携を維持させたことを知る。 ・イスラーム教の特徴を知り、キリスト教、ユダヤ教との関係性を考える。 【各地のイスラーム国家】 ・アラビア地域だけでなく、アフリカ、トルコでもイスラーム文化が発展を遂げたことを知り、宗教の展開と地理的環境の関係性を理解する。
	イ ヨーロッパ世界の形成と展開 ビザンツ帝国と東ヨーロッパの動向、西ヨーロッパの封建社会の成立と変動に触れ、キリスト教とヨーロッパ世界の形成と展開の過程を把握させる。	【ビザンツ帝国と東ヨーロッパの動向】 ・東ローマ帝国の地理的な位置を理解する。 ・ユスティニアヌス帝を中心に、西ヨーロッパと違い、長く帝国が続くことになる礎が初期に形成されたことを理解する。 ・ビザンツ帝国が次第にギリシャ化していき、コンスタンティノープルがヨーロッパ、アジア、地中海と黒海の中継点として経済的に繁栄したことを知る。 ・東ヨーロッパ各地にスラブ人国家が建設され。ビザンツ文化、ギリシア正教、ローマカトリックを受け入れるなど、多数の性格をもつ世界と交流を持ったことを理解する。

学習指導要領	都立篠崎高校 学カスタンダード
ウ 内陸アジアの動向と諸地域世界 内陸アジア諸民族と宋の抗争、モンゴル帝国の興亡とユーラシアの諸地域世界や日本の変動に触れ、内陸アジア諸民族が諸地域世界の交流と再編に果たした役割を把握させる。	【西ヨーロッパの封建社会の成立と変動】 ・西ヨーロッパ世界では、ビザンツ帝国に対して独自性が確立し、イスラーム勢力やノルマン人と対抗する中で、封建社会が成立したことを知る。 ・西ヨーロッパでは農業技術の革新と生産性の向上、商業や都市の発達を背景に 11 世紀から 13 世紀にかけて封建社会が変容し 14 世紀以降には国王による中央集権化が進んだことを理解する。 【キリスト教】 ・東西ヨーロッパとキリスト教の関わりを知るとともに、イスラーム文明との関係を理解する。 【内陸アジア諸民族】 ・トルコ系民族のアジアへの侵入、イスラーム化を知りアジアへの影響を考える。 ・宋代の産業や文化の発達と、日本とのかかわりを考える。 【モンゴル】 ・13, 14 世紀のモンゴルの繁栄から衰退を理解する。その際元寇から日本との関係を理解し、日本史と関連づけて世界史を考える力を身に付ける。 ・同時代性に着目して主題を設定し、諸地域世界の交流などを地図上に表したり、世紀ごとに比較したりするなどの活動を行い、歴史的事象を空間的に理解し、その時代の世界の特質や地域世界相互のかかわりを理解している。

	学習指導要領	都立篠崎高校 学カスタンダード
(4) 諸 地 域 世 界 の 結 合 と 変 容	エ 空間軸からみる諸地域世界 同時代性に着目して主題を設定し、諸地域世界の接触や交流などを地図上に表したり、世紀ごとに比較したりするなどの活動を通して、世界史を空間的なつながりに着目して整理し、表現する技能を習得させる。	
	アジアの繁栄とヨーロッパの拡大を背景に、諸地域世界の結合が一層進展したこととともに、主権国家体制を整え工業化を達成したヨーロッパの進出により、世界の構造化が進み、社会の変容が促されたことを理解させる。	【オスマン帝国】 ・オスマンの成立と発展、衰退を体系的かつ、空間的に理解する。
	ア アジア諸地域の繁栄と日本 西アジア・南アジアのイスラーム諸帝国や東南アジア海域の動向、明・清帝国と日本や朝鮮などとの関係を扱い、16世紀から18世紀までのアジア諸地域の特質とそこでの日本の位置付けを理解させる。	【明・清と日本】 ・東アジアの均衡を理解し、近代化するアジアを知る。 ・16世紀以降、清帝国の建設と日本の朝鮮出兵があったことを理解する。
	イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界 ルネサンス、宗教改革、主権国家体制の成立、世界各地への進出と大西洋世界の形成を扱い、16世紀から18世紀までのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係を理解させる。	【ルネサンス】 ・ルネサンスの意味を正しく理解する。また、芸術と政治のつながりを考え、人間性の解放を理解する。 【大航海時代】 ・ヨーロッパと世界のつながりを知る。 ・商業的理由と宗教的理由が背景にあったことを理解する。 【宗教改革】 ・カトリックを批判する宗教改革の運動が、ドイツからヨーロッパ各地に広がったことを知る。 【主権国家体制の確立】 ・大航海時代以降のヨーロッパ各国の発展とそれに伴う主権国家体制の確立の過程を理解し表現できる。

学習指導要領	都立篠崎高校 学カスタンダード
オ 資料からよみとく歴史の世界 主題を設定し、その時代の資料を選択して、資料の内容をまとめたり、その意図やねらいを推測したり、資料への疑問を提起したりするなどの活動を通して、資料を多面的・多角的に考察し、よみとく技能を習得させる。 科学技術の発達や生産力の著しい発展を背景に、世界は地球規模で一体化し、二度の世界大戦や冷戦を経て相互依存を一層強めたことを理解させる。また、今日の人類が直面する課題を歴史的観点から考察させ、21世紀の世界について展望させる。	行われたことを知る。 ・インドではイギリスの植民地化が進み、インド大反乱後にムガル帝国が滅亡し、イギリス支配下でインド帝国が成立したことを知る。 ・東南アジアではオランダ・イギリス・フランスによる植民地化が進み、タイのみが独立を維持していたことを知る。 ・中国においては、イギリスを先頭とするヨーロッパ諸国の進出が強まり、アヘン戦争・アロー戦争などを通じて半植民地化が進行する中で、太平天国のような民族運動や洋務運動のような近代化運動が起きたことを知る。 ・日本が、開国後明治維新を経て、ヨーロッパ文明の導入と近代化を進めたことを理解する。 ・設定した主題にかかわる文字資料や、絵画、風刺画、写真などの図像資料を取り上げ、内容、意図、ねらいなどについて考察し、その時代の人々が自分たちの時代や社会をどうとらえ、どう表現しようとしたかを理解することができる。 [科学技術の発達、企業・国家の巨大化、国民統合の進展] ・19世紀後期の科学技術の発達が、欧米諸国で第二次産業革命の進展を促し、企業による寡占化と資本の集中・集積が進んだことを知る。

学習指導要領	都立篠崎高校 学カスタンダード
ア 帝国主義と社会の変容 科学技術の発達、企業・国家の巨大化、国民統合の進展、帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、国際的な移民の増加などを理解させ、19 世紀後期から 20 世紀初期までの世界の動向と社会の特質について考察させる。	[帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応] ・欧米諸国が工業製品や資本の輸出先を求めて、世界各地に進出し、植民地や勢力圏の獲得競争を展開したことを知る。 ・欧米諸国の支配を受けたアジア・アフリカで民族意識が目覚め、様々なナショナリズム運動がおこったことを知る。 ・日本では日清戦争、日露戦争を経て近代産業が成立し、不平等条約が改正されたことを知る。
イ 二つの世界大戦と大衆社会の出現 総力戦としての二つの世界大戦、ロシア革命とソヴィエト連邦の成立、大衆社会の出現とファシズム、世界恐慌と資本主義の変容、アジア・アフリカの民族運動などを理解させ、20 世紀前半の世界の動向と社会の特質について考察させる。	[第一次世界大戦] ・第一次世界大戦の勃発に至る経緯を知るとともに、第一次世界大戦が総力戦としての性格を持っていたことを知る。 [ロシア革命とソヴィエト連邦の成立] ・ロシア革命の過程と、それによって成立したソヴィエト連邦が世界に与えた影響について知る。 [大衆社会の出現とファシズム] ・大戦後に国際連盟やヴェルサイユ・ワシントン体制が成立し、大戦前と国際秩序が変化したことを知る。 ・開戦期において、アメリカ合衆国が国際的影響力を急速に増し、その大量生産・大量消費の生活様式が欧米諸国や日本に波及し、大衆社会が出現したことを知る。 ・大衆の政治参加がイタリア・ドイツでファシズムを生むなど、当時の国家や社会、文化に大きな影響を与えたことや同時期に日本の軍部の台頭やソヴィエト連邦の台頭を知る。

	学習指導要領	都立篠崎高校 学カスタンダード
(5) 地球世界の到来	ウ 米ソ冷戦と第三世界 米ソ両陣営による冷戦の展開、戦後の復興と経済発展、アジア・アフリカ諸国の独立とその後の課題、平和共存の模索などを理解させ、第二次世界大戦後から 1960 年代までの世界の動向について考察させる。	エト連邦におけるスターリンの独裁が生じたことを知る。 [第一次世界大戦後のアジア・アフリカの情勢] ・ 第一次世界大戦後に、中国での五・四運動、インドでのガンディーや国民会議派による運動、トルコでのトルコ革命など大衆的基盤を持つ民族運動が発生したことを知る。 [世界恐慌とその後の世界情勢] ・ 世界恐慌が資本主義諸国に深刻な打撃を与え、アメリカ合衆国のニューディール政策やイギリスのブロック経済政策など、各国で様々な恐慌対策が取られたことを知る。 ・ 世界恐慌の中で、ソヴィエト連邦が五カ年計画の下、工業生産を増大させていったことを知る。 [第二次世界大戦] ・ 第二次世界大戦について、ヨーロッパの戦争から始まり、太平洋地域に戦争が拡大し、洗浄が広域化していった過程、核兵器がもたらした甚大な被害、戦争の様相が多数の民間人を含む膨大な犠牲をもたらしたことを知る。 [米ソ両陣営による冷戦の展開] ・ 国際連盟に代わり国際連合が結成され、また敗戦国の処理が進められる中で戦後の世界秩序が形成されていったことを知る。 ・ 第二次世界大戦後、東欧諸国に社会主義政権が誕生しソヴィエト連邦の影響力が拡大したのに対し、アメリカ合衆国が西欧諸国への経済援助をして「対ソ封じ込め」を図ったことを知る。 ・ 米ソ両国が核兵器の力を背景にそれぞれ経済協力と集団安全保障の体制を樹立して自陣営の強化を図る中で、対立関係が非ヨーロッパ世界にも拡大し、朝鮮戦争など様々な紛争を引き起こしたことを知る。 [戦後の復興と経済発展] ・ 西欧諸国や日本で、アメリカ合衆国の支援と安定

学習指導要領	都立篠崎高校 学カスタンダード
エ グローバル化した世界と日本 市場経済のグローバル化とアジア経済の成長、冷戦の終結とソヴィエト連邦の解体、地域統合の進展、知識基盤社会への移行、地域紛争の頻発、環境や資源・エネルギーをめぐる問題などを理解させ、1970年代以降の世界と日本の動向及び社会の特質について考察させる。	した国際貿易体制に支えられ経済復興を成し遂げたことや、その後西ドイツと日本では高い経済成長がみられたことを知る。 [アジア・アフリカ諸国の独立とその後の課題] ・第二次世界大戦後、民族独立運動がアジアからアフリカへと段階的に波及し、1960年代には植民地の大半が独立を達成したことを知る。 ・アジア・アフリカ諸国が国際社会において第三世界として発言力を増すとともに、平和共存を模索し、植民地支配の終焉に大きな役割を果たしたことを知る。 ・アジア・アフリカ諸国の経済的自立は容易ではなく、先進諸国との経済格差が拡大し、南北問題として認識されるようになった。 [平和共存の模索] ・ヴェトナム戦争などでアメリカ合衆国の経済状況が悪化する中、EC諸国や日本の経済が急成長し、また中ソ対立の深刻化やチェコスロヴァキアの改革に対するソヴィエト連邦などの軍事介入により、両陣営内での米ソの指導力に陰りが見え始め、国際政治は多極化に向かったことを知る。 [市場経済のグローバル化とアジア経済の成長] ・1970年代には入り、アメリカ合衆国主導の国際通貨制度が瓦解して変動相場制に移行し、二度の石油危機が欧米諸国や日本に大きな打撃を与えたことを知る。 ・1980年代以降、先進工業国が産業国造を転換し、途上国への工場移転を図る一方で、中国やアジアの新興工業地域が欧米諸国や日本から技術や資本を導入して輸出志向の工業化に乗り出し、急成長を遂げたことを知る。 [冷戦の終結とソヴィエト連邦の解体] ・社会主義計画経済の立ち遅れが明らかになり、東欧やアジアの社会主義国でも経済開放政策が採用され、市場経済の世界化が一層進んだことを知る。

学習指導要領	都立篠崎高校 学カスタンダード
オ 資料を活用して探究する地球世界の課題 地球世界の課題に関する適切な主題を設定させ、歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、資料を活用し表現する技能を習得させるとともに、これからの世界と日本の在り方や世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について展望させる。	・ ソヴィエト連邦では経済の行き詰まりを立て直すためペレストロイカを行ったが、経済状況は改善されず、むしろ東欧諸国の改革に拍車がかかり、1980年代末には東欧諸国でも社会主義体制が崩壊し、冷戦が終結するとともに、ソヴィエト連邦が解体されたことを知る。 [地球的諸課題をめぐる問題] ・ 冷戦終結後に激化した旧ユーゴスラヴィア内戦、アフリカのソマリア内戦や、第二次世界大戦直後から続いているパレスチナ紛争などの地域紛争が世界各地で頻発していることを知る。 ・ 地球の温暖化や大気汚染、森林の消滅などの環境や資源、エネルギー問題が地球世界の切実な課題であることを知る。 ・ 地球世界の課題に関して設定した主題について、資料を用いて探求し、これらの世界と日本の在り方や世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について展望することができる。